

連合獣医学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	連合獣医学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p>入学者選抜の改善に繋がった取組</p> <p>○Native English speakerによる英語入試問題の確認と設問内容の一般性に関する作業を実施し、問題の適正化を図った。</p> <p>入学者数を改善するための取組</p> <p>○研究科の入学者数は入学定員の1.05倍（21名）で有り適正な数である。</p>	<p>平成28年度入学者在学者状況 資料1</p>	
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<p>単位の実質化を図るための取組</p> <p>○学際領域特別講義は、専門分野講義3コマ、連携機関の教員による専門外分野講義1コマ、国際医療情勢及び生物統計に関する一般基礎分野講義2コマで構成することで、広角的な視野の習熟に繋がった。</p> <p>○科学英語は、プレゼンテーション能力の向上を主眼に置き、プレゼンテーションの準備による授業時間外の学習時間の確保を図った。</p>	<p>学際領域特別講義プログラム 資料2</p> <p>科学英語シラバス 資料3</p>	
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p>学習成果の向上に繋がった取組</p> <p>○学際領域、科学英語及び実践実習について授業後のアンケートにより、受講生の大部分が理解できていることが認められ、学習成果が向上していると考えられる。</p> <p>○修了生27人中16人が研究職に就き、研究科の目的である教育者及び研究者の育成を達成している。</p>	<p>科学英語授業アンケート結果、実践実習授業アンケート結果 資料4</p> <p>修了者就職先一覧 資料5</p>	
<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p>教育の質の改善に繋がる取組</p> <p>○研究不正が社会的に問題となり、新入生に対する研究倫理教育を特別講義（受け入れカリキュラム）で実施するとともに、CITI Japanのe-learningを全学生に義務付けた。</p> <p>○大学院生の教育・研究の指導面での課題を的確に把握するため、過年度生を指導する教員へ聞き取りを実施し、実態把握に努めた。</p>	<p>講義概要 資料6</p>	

平成28年度 連合獣医学研究科の教育改善（基準4、5、6、8）

連合獣医学研究科
研究科委員会

代議委員会
(各大学2名、計10名で構成)

研究科の管理
運営を担当

入学試験委員会

入試関係を担当

基準5 教育内容および方法

- 研究科が多彩な教育内容を提供：
学際領域特別講義（学際的な科目を導入し、毎年、アンケート調査にて改善）
- 多様な講義および演習手法を導入：
出張講義、遠隔講義、他大学での演習、海外研修や国際学会への出席を支援

学際領域特別講義（岐阜大学発信）



出張講義



遠隔講義



基準6 学習成果

- 科学英語や実践実習の改善：→ アンケートにて内容を改善し、学習成果を確保
科学英語は4大学で実施、実践実習は5連携機関で実施
- 大学院の教育研究成果 → 修了時アンケートと学位授与率等で評価
昨年の修了生の約6割が大学および国公立研究機関へ就職

基準8 教育の内部質保証システム

- 初年次での研究倫理教育とコンプライアンス教育の充実：→ FDIにて周知
大学院1年次の特別講義にて、研究倫理教育を実施
- 研究科提供科目での授業評価：→ アンケート調査を導入して内容を評価
研究科が指導する講義、実践演習や他大学との連携教育の内容を改善

基準4 教育内容および方法

- 大学院の外国語入学試験問題の改善と入試制度への取り組み：
Native English Speakerのチェックの導入による良問作製へと改善
- 入学者数の適正化：
平成27年度の入学生は、1.3倍以下（定員20名）と適性数を確保

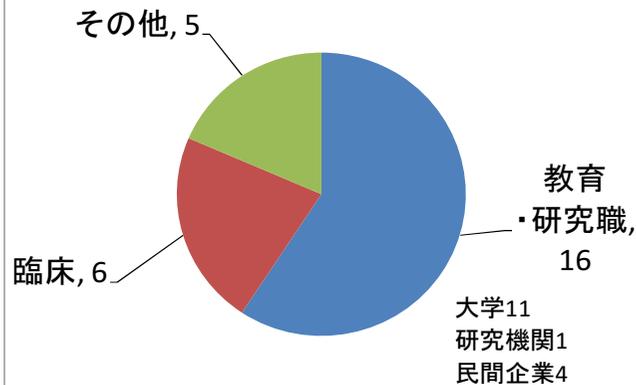
平成28年度 連合獣医学研究科の教育改善 (基準4、5、6、8)

基準4 学生の受入

- 大学院の外国語入学試験問題の改善
- 入学者数の適正化

- 獣医学を通じて社会貢献に意欲を有する人
- 獣医学やそれに関連した諸科学に関して研究心を有する人
- 獣医学やそれに関連した分野で技術の向上に意欲のある人
- 獣医学を基盤に、国際貢献に意欲のある人
- 獣医学に関連した諸学問に興味があり、自らの専門性を探求したい人

【平成28年度修了生就職先】



入学試験委員会
入試関係を担当

代議委員会
(各大学2名、計10名で構成)

連合獣医学研究科
研究科委員会
研究科の管理運営を担当

基準5 教育内容および方法

- 研究科提供講義の広角化
- 多様な講義および演習手法を導入



学際領域特別講義(岐阜大学発信)
(各大学) 実践実習



基準6 学習成果

- アンケートに基づく内容の改善と学習成果を確保
- 大学院修了後の就職状況

基準8 教育の内部質保証システム

- 研究不正のための研究倫理教育
- 大学院生の教育・研究の指導面で実態把握

到達目標

- ・知識と技術力
- ・研究能力と研究倫理観
- ・表現力とコミュニケーション力
- ・国際貢献
- ・社会貢献力と倫理観